

自殺対策の取り組み発信

陸前高田市の
未来図会議

日本公衆衛生学会で

陸前高田市の保健・医療・福祉について考える「陸前高田市未来図会議」はこのほど、福島県郡山市で開催された第77回日本公衆衛生学会で「被災地陸前高田に学ぶ、自殺対策の方向性と課題」の方向性と課題をハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合の重要性と難しさ」と題しシンポジウムを開催した。出席者は官民一体となった同市の取り組みか

ら、自殺防止対策を考えるうえで考慮すべき点などを学んだ。

会員数8000人を超える公衆衛生学会は、日本における公衆衛生の要学会の一つ。今年の学会は「ゆりかごから看取りまでの公衆衛生」をテーマに開催された。

千香さん(大阪府枚方市保健所)と岩室紳也さん(ヘルスプロモーション推進センター代表)が座長を務め、各演者が発表した。

このうち、岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座助教授で保健師の佐々木亮平さんは、発災直後から同市で保健医療福祉関係機関の調整に奔走し、未来図会議を立ち上げたことなどを説明。



＝郡山市

取り組みについて発表

に見えない被災」を通してつらい思いを抱える人々と話す中で、心をいやすための環境整備、避難所から仮設住宅への移行といった生活環境の変化をふまえた対応が必要だったと報告した。

本年度、全国の各自治体ごとに自殺対策計画を策定することになっており、陸前高田では今年5月に同計画がまとめられた。シンポジウムは、同市の経験を全国での計画策定に生かしてもらおうと、陸前高田への支援にかかわり続けてきた白井

会議の中から、自殺予防のみならず、一人の健康と元気づくりにつながる「はまっけらいん、かだってけらいん(はまかだ運動)」が広がっていった経緯と、運動の重要性について紹介した。

会場からは、市民を巻き込んだ「はまかだ運動」と、岩手県最大の被災地である陸前高田市がいち早く自殺防止計画を作成したことについて、評価の声が多くあがっていた。